



今も受け継がれる

7つの神楽

築上町の神楽は、江戸時代までは旧築城郡16の社家(神職)で構成され、各神社に奉納していました。町内には現在も7つの神楽(赤幡・寒田・小原・岩丸・伝法寺岩戸・榛原・湊金富)が継承されており、豊前神楽として国の重要無形民俗文化財に指定されています。人々の無病息災や祝福を祈り、五穀豊穡を感謝する神楽は地域の人々の交流の場でもあり、各保存会では祭りでの奉納と後継者の育成に取り組んでいます。

先人たちが
築き上げてきた

歴史と文化

伝統芸能

楽打

五穀豊穡や雨乞い、天下泰平などを祈願する「楽打」は、念仏踊系の伝統芸能。町内では、高塚楽、岩戸楽、安武楽があり、子どもたちが太鼓や鉦の拍子に舞います。



伝統芸能

円座餅搗き

秋祭の神饌の餅を搗く時に、「われも、われも」と大勢が棒で搗いたのが始まり。しめこみ姿の男衆による餅搗きでは、白練りという勇ましい白の奪い合いが行われます。



国指定名勝

旧藏内邸

旧藏内邸は明治時代から昭和前期まで筑豊地方を中心に炭鉱を経営した藏内次郎作、保房、次郎兵衛の藏内家三代の本家住宅。邸宅や庭園は、全体が近代的な優れた造形、意匠、工法でまとめられ、現在も周辺の景観とともに当時の状態をよく残しています。近代における重要な歴史遺産です。



戦国のムラ

城井谷

築上町には数多くの山城や砦跡が今も山中に残っています。中でも豊前宇都宮氏の興亡を物語るのが戦国のムラ・城井谷です。『城井谷絵図』に「城井盾籠所」と書かれた城井ノ上城址には巨岩の表門と裏門があります。周囲を岩壁に囲まれた地形で、村人などが避難のため籠る場所と考えられています。



国指定史跡

船迫窯跡公園

発掘調査によって、6世紀後半の須恵器を焼いた窯跡から、7世紀中頃の九州最古級の瓦を焼いた窯跡、奈良時代の豊前国分寺の瓦を焼いた窯跡などが発見されています。敷地内には工房跡の大型建物が復元され、山の中には発掘された窯跡の現物を見学できます。

町内の史跡、歴史、まつりなどを紹介するホームページ。菅原道真公ゆかりの綱敷天満宮、豊前宇都宮氏の山城や伝統芸能など、歴史が盛りだくさんの築上町を地図上で確認できる機能も備えています。

築上町
歴史散歩

